

WAVE
Wireless Presentation
Platform



はじめに

Atlona **AT-WAVE-101**は、iOS®、Android™、Mac®、Chromebook™、Windows®デバイスと簡単にコンテンツを共有できるように設計されたワイヤレスプレゼンテーションおよびコラボレーションプラットフォームです。WAVE-101は、最大4人のプレゼンターが同時にコンテンツを画面上で共有でき、Instructor Modeでは、追加のプレゼンターを管理し、表示するプレゼンターを選択することが可能です。ワイヤレスBYODインターフェースは、デバイスのネイティブキャストプロトコル（AirPlay®、Google Cast™、Miracast™など）により、アプリをインストールすることなく、簡単に実現することができます。Dynamic Layout Mode™は、ハンズフリーで簡単に操作できるWAVE-101の革新的な機能で、新しい受信または切断されたソースコンテンツに画面上のレイアウトを自動的に適応させます。WAVE-101は、その他にも、プログラマブルディスプレイ制御、ユーザーがアップロードした画像やビデオメディアの表示、YouTubeライブストリーミング、クラウドベースのデジタルサイネージアプリケーションへの対応など、インテグレーターやエンドユーザーにとって便利な機能を多数搭載しています。

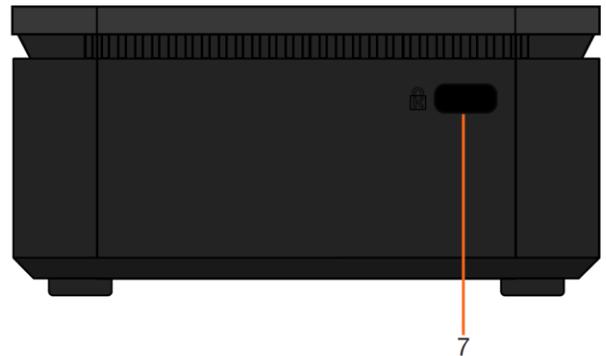
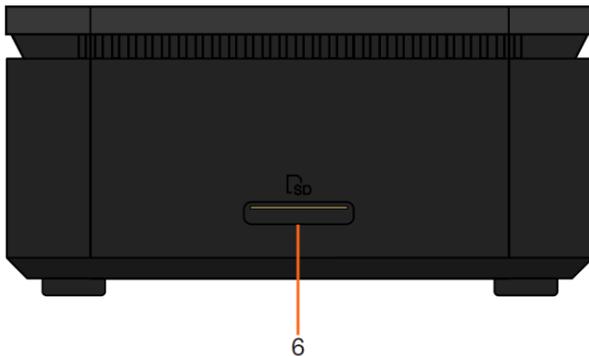
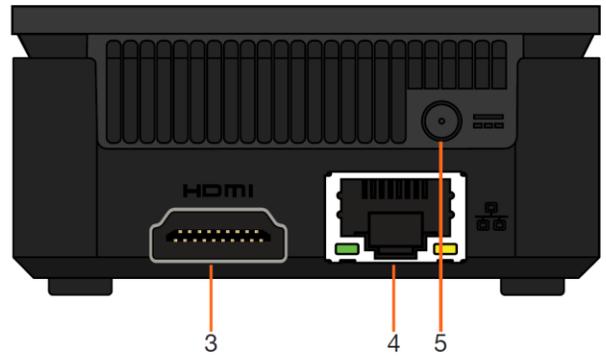
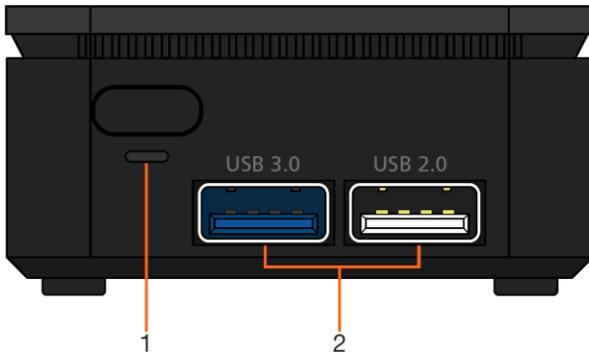
特徴

- ワイヤレスAVプラットフォームにより、最大4人の1080pプレゼンターの同時コンテンツ共有が可能
- AirPlay、Google Cast、Miracastのネイティブプロトコルにより、iOS、Android、Mac、Chromebook、Windowsデバイスでワイヤレススクリーンキャストが可能
- Dynamic Layout Mode™（特許出願中）は、入力されるコンテンツや切断されたソースコンテンツに自動的に適応し、コンテンツを画面に表示する方法を最適化
- 画面上に表示されるプレゼンターの数を決定する、選択可能な固定レイアウトモードが利用可能
- Instructor Modeでは、コンテンツの管理、音声ボリュームの調整、メディアコンテンツのアップロードと再生、YouTubeのストリーミング、レイアウトの切り替えが可能
- YouTubeライブストリーミングに対応。 - クラウドベースのデジタルサイネージプラットフォームをサポート
- 画像や映像の再生に利用できるローカルストレージ
- -Apple® iBeacon®デバイスディスカバリーにより、iOSデバイスやMacコンピュータの接続を高速化
- Miracast over Infrastructureに対応し、施設のWi-FiやEthernetネットワークを利用可能
- ワイヤレス AV インターフェースは、各ネイティブプラットフォームに対して有効、無効を選択可
- 最大1080p30 4:2:0のワイヤレスビデオに対応（Miracastでは最大1080p60）
- ランダム生成されるパスワードとPINコード（AirPlayおよびMiracastインフラストラクチャ & P2P用）、および設定可能なファイアウォールにより、ワイヤレスとコンテンツ共有を安全に保護
- WPA2-PSK、AES-128暗号化など、業界標準のネットワークセキュリティ機能およびプロトコルをサポート
- IP、RS-232（オプションのアダプター使用）、TCPプロキシ（ポート9001）のタイムスケジュールによるディスプレイ制御が可能

パッケージ内容

- 1 x AT-WAVE-101
- 1 x VESA マウント金具
- 2 x 取付ネジ
- 1 x 12V DC電源
- 1 x インストールガイド（英語）

パネル説明



1. 電源ボタンとLED

このボタンを使用してユニットの電源をオフにします。ユニットの電源をオフにするには、4秒間押し続ける必要があります。ユニットの電源がオンになると、LEDが緑色に点灯します。

2. USB

USB Wi-Fiアダプター、またはUSB-RS-232アダプター（別売）を接続します。必要に応じて、USBポートを増設するためのUSBハブにも対応しています。

3. HDMI OUT

HDMI ディスプレイに接続します。

4. イーサネットポート

コンテンツ、コントロール、ディスカバリーのためにネットワークスイッチに接続します。

5. 12V DC

このポートから付属の12V DC電源を壁のコンセントに接続します。

6. SDスロット

将来的に対応します。

7. ケンジントンロック

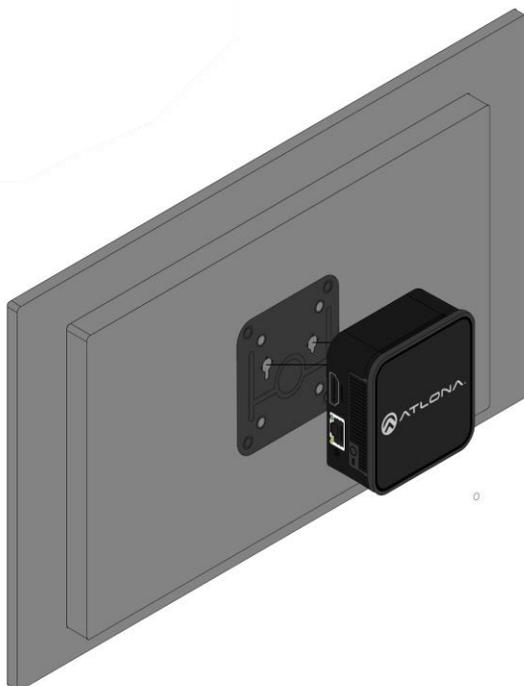
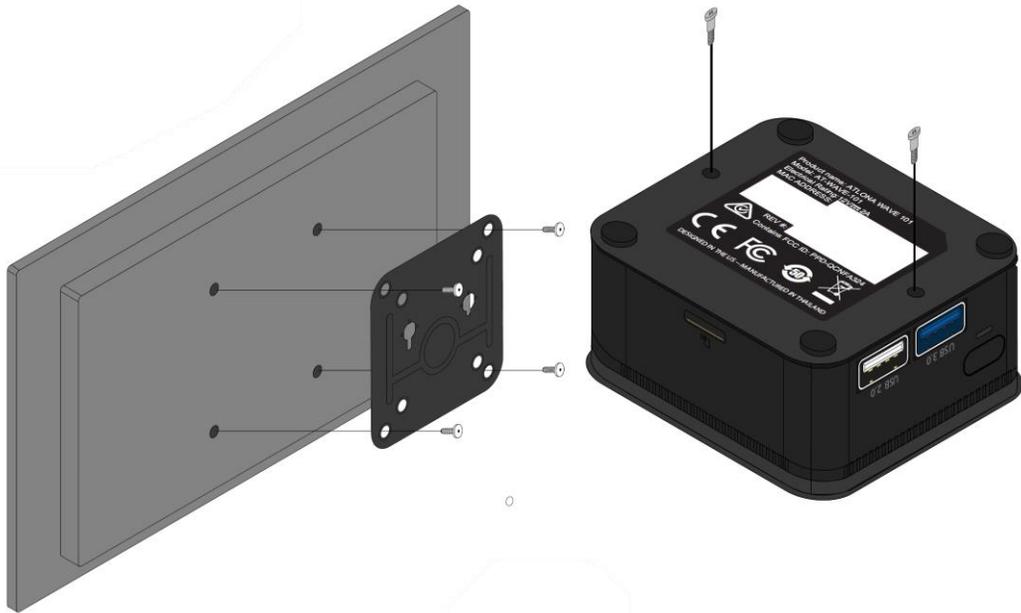
このポートからケンジントンロックをテーブルや机などに接続し、不要な取り外しを防ぎます。

インストール

取付方法

AT-WAVE-101には、ディスプレイやモニターなどに取り付けるための標準的なVESAマウントが付属しています。

1. VESAマウントを4本のネジ（別売）で設置面に取り付けてください。
2. WAVE-101を上下逆さまにして、付属のネジ2本を本体底面に取り付けます。ネジが少しはみ出します。



3. VESAマウントの長方形の大きな穴にネジが合うようにWAVE-101を回転させ、マウンティングプレートに本体を取り付けてください。VESAマウントに完全にはまると、本体が下にスライドするようになります。

接続方法

1. *任意* A/Vストリーム、IP制御、システム設定用に、ネットワークスイッチをイーサネットポートに接続します。
2. *任意* USB Wi-FiアダプターをUSBポートの1つに接続し、既存のワイヤレスネットワークに接続（Connectモード）、またはワイヤレスネットワークを作成（Access Pointモード）します。
3. *任意* RS-232 ディスプレイを制御するには、USB-RS-232 アダプターを USB ポートの 1 つに接続します。
4. HDMI出力ポートからディスプレイへHDMIケーブルを接続します。
5. 付属のDC12V電源を電源ポートから互換性のある電源コンセントに接続します。

IPモード

DHCP

AT-WAVE-101は、デフォルトでDHCPモードに設定されています。このモードでは、WAVE-101をローカルエリアネットワーク（LAN）に接続すると、DHCPサーバ（使用可能な場合）により自動的にIPアドレスが割り当てられます。このIPは、ディスプレイのタッチスクリーンに表示されるか、ネットワーク上でスキャンすることができます。

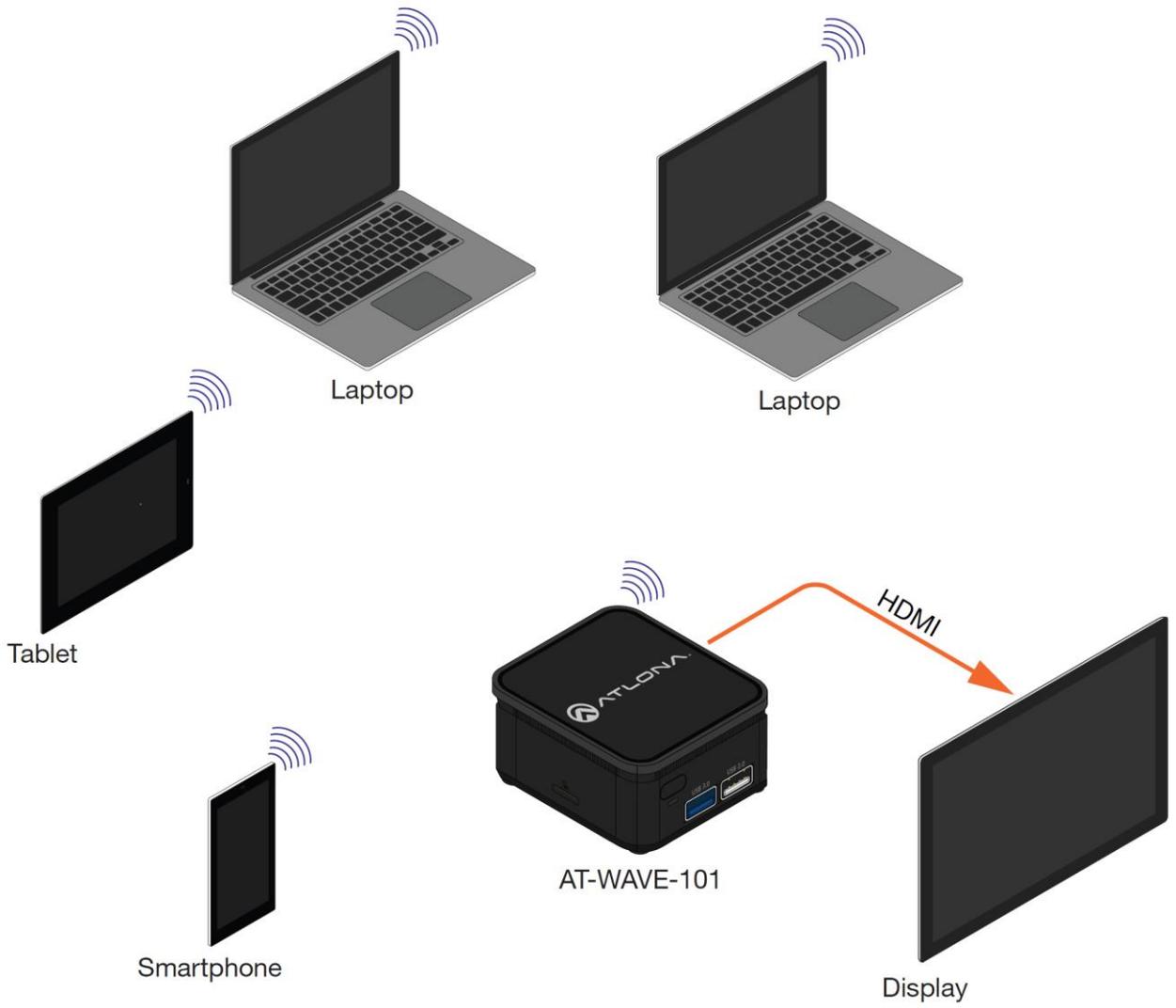
固定IP

固定IPが必要な場合は、WebGUIのネットワークセクションで、WAVE-101を固定IPモードに設定することができます。

自動

AT-WAVE-101が15秒以内にDHCPサーバーを検出できなかった場合、169.254.xxx.xxx、サブネット255.255.0の範囲で自己割り当てIPアドレスが使用されます。

接続図



キャストイング

AT-WAVE-101には、ネットワーク上またはワイヤレスアクセスポイントを介してデバイスに接続する機能を備えています。Windows、Chrome OS、Android、iOS、macOSはすべてWAVE-101を経由して、接続したディスプレイに投影することができます。

Miracast™

Miracastは、Windowsノートパソコンや一部のアンドロイド端末のコンテンツをディスプレイにワイヤレスで転送する方法を提供します。



注：Miracastには、Peer-to-Peer (P2P) と Miracast over Infrastructure (MICE) という2種類のキャストタイプがあります。P2Pは独自に作成したワイヤレスアクセスポイントを介して送信し、Miracast over Infrastructure (推奨)は現在のネットワークを使用してデバイスに接続します。P2P接続は、一度に1つしか開くことができません。WAVE-101がP2P接続されている場合、他の機器から発見されることはありません。Miracast over Infrastructureは、複数の接続を持つことができます。

Miracastデバイスの表示は、複数の方法で設定することができます。以下、2つの方法について説明します。1つ目の方法は、最も直接的な方法です。

方法1

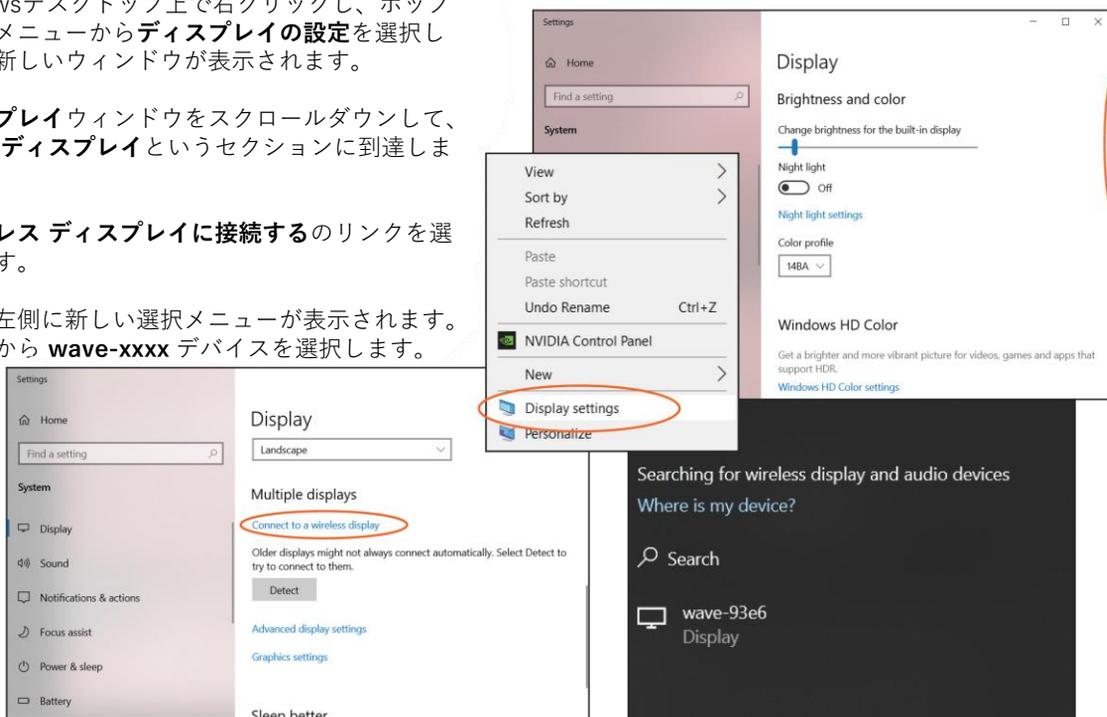
1. **Windows** + **K** キーを同時に押します。
2. 画面右側に利用可能なデバイスの一覧が表示されます。その中からWAVE-101のホスト名を選択します。

切断は、画面中央上部にあるdisconnectボタンを押すだけです。



方法2

1. Windowsデスクトップ上で右クリックし、ポップアップメニューから**ディスプレイの設定**を選択します。新しいウィンドウが表示されます。
2. **ディスプレイ**ウィンドウをスクロールダウンして、**マルチディスプレイ**というセクションに到達します。
3. **ワイヤレスディスプレイに接続する**のリンクを選択します。
4. 画面の左側に新しい選択メニューが表示されます。リストから **wave-xxxx** デバイスを選択します。



切断は、画面中央上部にあるdisconnectボタンを押すだけです。

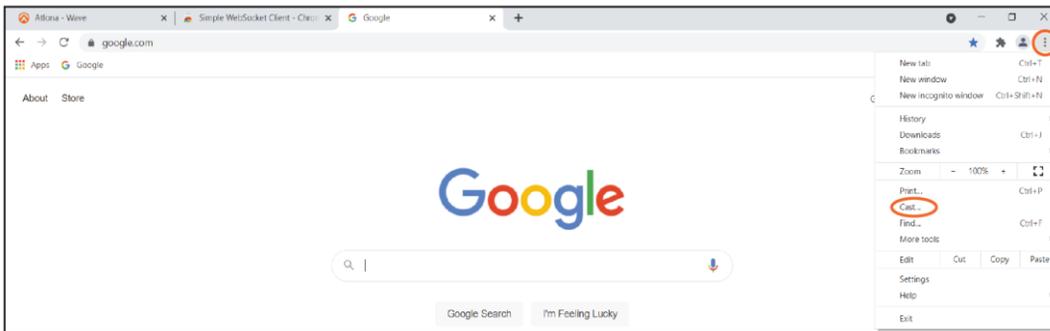


Google Cast™

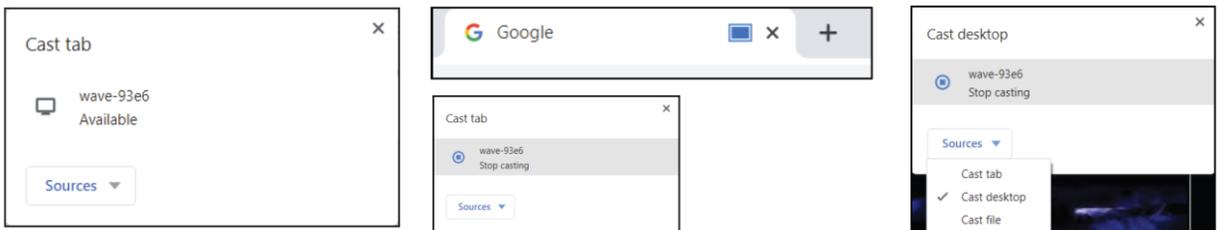
Google Castは、Google ChromeブラウザやAndroid端末のコンテンツをワイヤレスでディスプレイに送信する方法です。

Chrome

1. WAVE-101とクロームブラウザを起動している端末が、同じネットワーク上にあることを確認してください。
2. Google Chromeを起動します。
3. ブラウザの右上にあるトリプルドットのアイコンを探し、選択します。



4. ドロップダウンメニューから**キャスト...**オプションをクリックします。新しいポップアップが表示されます。
5. **キャストタブ**からWAVEを選択します。キャスト中はタブにブルースクリーンアイコンが表示されます。



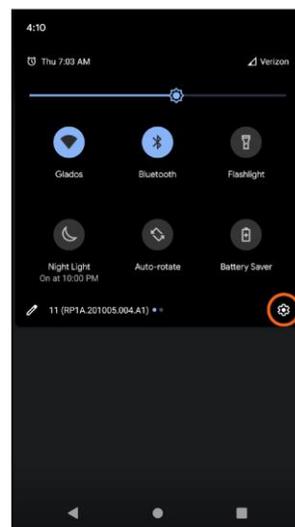
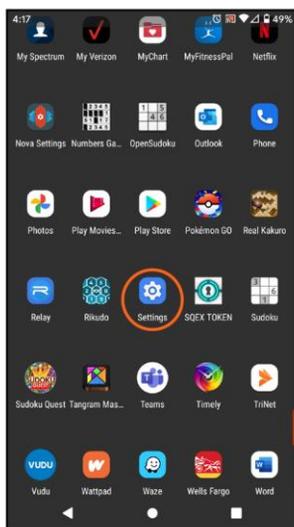
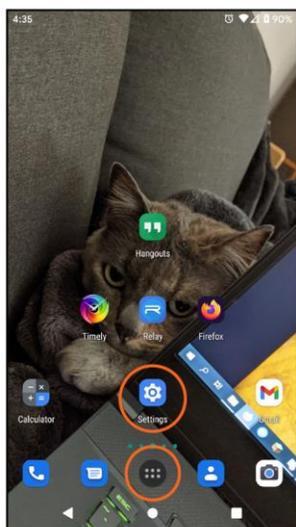
注：デフォルトでは、ブラウザは現在のタブをキャストします。ソースメニューを選択することで、デスクトップをキャストソースとして設定することができます。

キャストを停止するには、再度キャストタブからWAVEを選択してください。

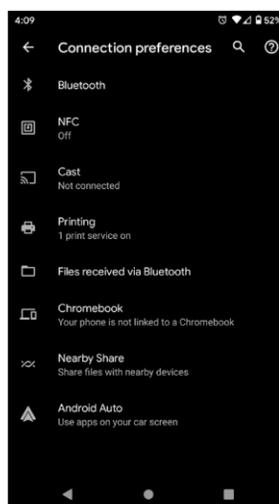
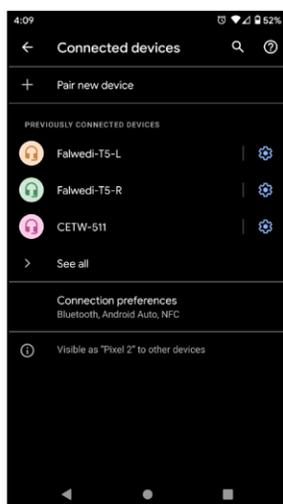
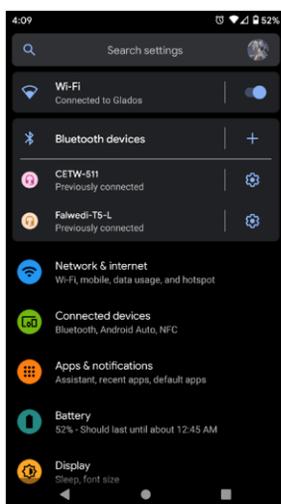
Android

ほとんどのAndroid端末は、Google Castを使用する機能があります。初回のキャストは、今後のキャストと手順が異なります。

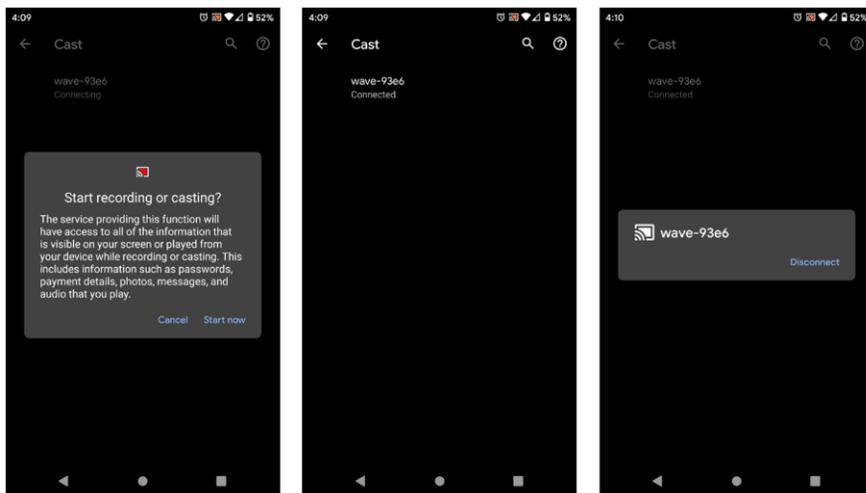
1. Android端末の**設定**を開きます。これは、アプリドロワー、設定アプリが追加されている場合はホーム画面、または下にスワイプすることでアクセスできるトップメニューのいずれかで見つけることができます。



2. メニューから「接続されたデバイス」を選択します。
3. 新しい画面から「接続設定」を選択します。
4. メニューから[キャスト]を選択します。
5. 対応機器のリストが表示されます。その中から「wave-xxxx」を選択します。ポップアップが表示されます。



6. **Start now** ボタンを押します。本機がキャストされると、キャスト画面に接続されていることが表示されます。

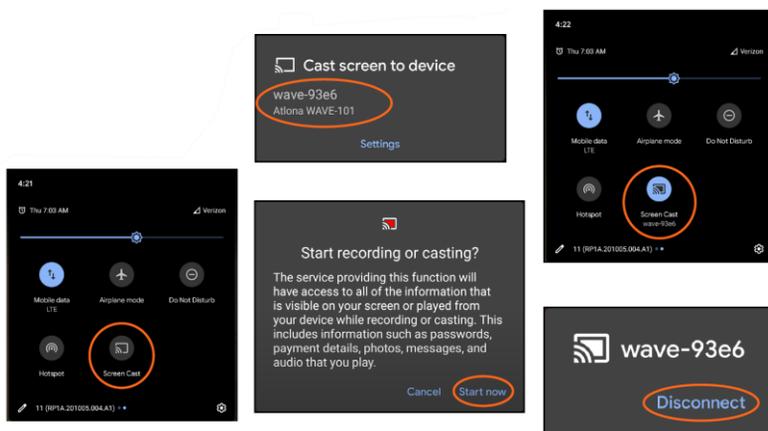


切断するには、キャストメニューから**wave-xxxx**を選択すると、ポップアップが表示されます。

Disconnectを選択すると、Android端末からのキャストが停止します。

初回キャスト後は、トップメニューにアイコンが表示され、素早く簡単にキャストできるようになります。

1. Android端末の画面上部から下へスクロールします。クイック設定が開きます。
2. *任意* 左にスワイプして（クイック設定の最初のページにない場合）、より多くのクイック起動アイコンに移動します。スクリーンキャストのアイコンが表示されるはずですが。
3. スクリーンキャストを選択します。ポップアップが表示されます。
4. キャストデバイスのメニューから、**wave-xxxx**を選択します。
5. **今すぐ開始**]を選択します。キャスト中はスクリーンキャストのアイコンが青くなります。



Screen Castを選択し、ポップアップの**Disconnect**を押してキャストを終了します。

AirPlay®

OS X搭載デバイス

AirPlay®は、Mountain Lion 10.8以降でのみサポートされています。使用中のシステムでAirPlayがサポートされているかどうかを確認するには、**システム環境設定 > ディスプレイ**をクリックします。「利用可能な場合はメニューバーにミラーリングオプションを表示する」チェックボックスが表示されていない場合、AirPlayはサポートされていません。

1. WAVE-101とAirPlay機器の両方が同じネットワーク上にあることを確認してください。
2. AirPlayでキャストするには、「ミラー」または「別のディスプレイとして使用する（拡張）」のいずれかを選択します。

・ミラーリング

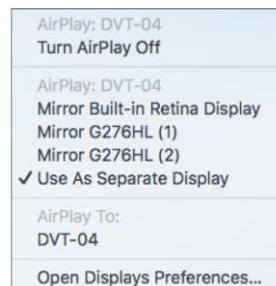
メニューバーの**AirPlayアイコン**をクリックし、ミラーリングしたいコンテンツを選択します。

・拡張

AirPlayアイコンをクリックし、メニューから**別のディスプレイとして使用**を選択すると、デスクトップが別のディスプレイに拡張されます。



AirPlayをオフにするには、**AirPlayアイコン**を選択し、**AirPlayをオフにする**を押します。



iOS 搭載デバイス

AirPlayはiOS 10以降にのみ対応しています。

1. WAVE-101とiOSデバイスの両方が同じネットワーク上にあることを確認してください。

iOS 11.0.3以降

2. 接続したら、**コントロールセンター**を開きます。
3. **画面ミラーリング**を選択します。利用可能なAirPlayデバイスのリストがポップアップで表示されます。
4. デバイスの一覧から**wave-xxxx**を選択します。WAVE101とiOSデバイスが接続されると、チェックマークが表示されます。



AirPlayをオフにするには、「ミラーリングを停止する」ボタンを選択します。

コントロール

WAVE-101は、ディスプレイの制御やオン/オフコマンドをスケジュールする機能を備えています。

ユニット

WAVE-101は、内蔵のWebGUIまたはWebSocketを使用して制御することができます。

WebSocket

WebSocketを使用して本機を制御することができます。コマンドはAPI内の https://atlona.com/pdf/AT-WAVE-101_API.pdf で確認できます。

WebGUI

本機にはウェブUIが内蔵されており、ユニットの設定を行うことができます。詳しくは、WebGUIセクションの [設定](#) を参照してください。

ディスプレイ

RS-232

WAVE-101は、USB-RS-232アダプタ（別売）を使用して、ディスプレイにOn/Offコマンドを送信することができます。このコマンドは、WebGUIの [ディスプレイ](#) 制御セクション、またはWebSocketでスケジュール設定することができます。（https://atlona.com/pdf/AT-WAVE_101_API.pdfにあるAPIを使用します）。

TCP Proxy

本機は、ポート9001を介してIPデータをRS-232に変換する機能を有しています。これにより、RS-232ポートしか持たない機器をTCP/IPで制御することができます。本機は、ポート9001に送られたコマンドを受け取り、対応するポートに送ります。TCP Proxyを使用するには、USB-RS-232アダプタ（別売）が必要です。

IP

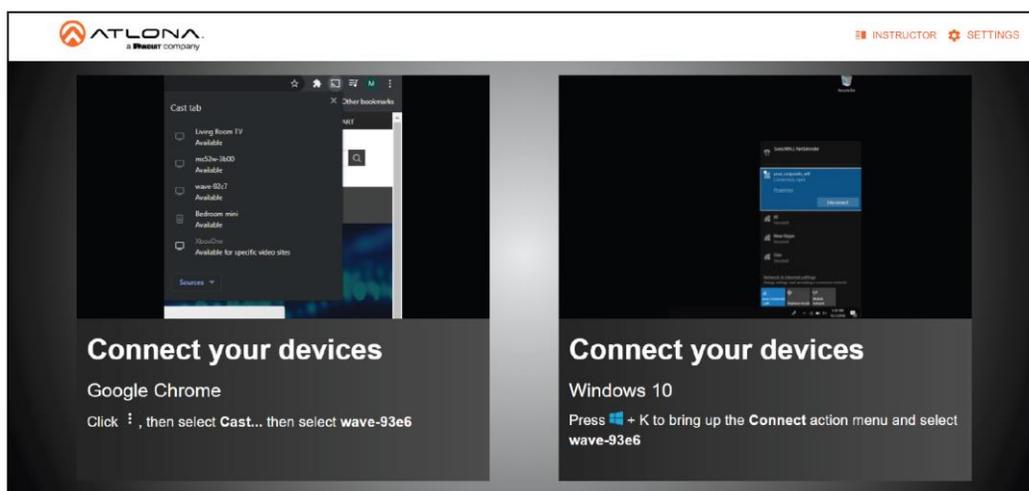
WAVE-101は、ディスプレイのIPアドレスを使って、ディスプレイにOn/Offコマンドを送信することができます。これは、webGUIの [ディスプレイ](#) 制御セクションまたはwebsocket（https://atlona.com/pdf/AT-WAVE-101_API.pdfにあるAPIを使用）でスケジュールを設定することができます。

WebGUI

i 注：WAVE-101がConnectモードとイーサネットと同じネットワークに接続されている場合、WebGUIにアクセスすることはできません。

WAVE-101は、WebGUIを内蔵しており、全機能を簡単にリモートで管理・制御することができます。以下の手順で、WebGUIにアクセスしてください。

1. AT-WAVE-101のイーサネットポートとネットワークをイーサネットケーブルで接続してください。
2. webGUIにアクセスする方法は、接続したディスプレイの画面に表示されたQRコードを読み取る、ディスプレイの画面に表示されたURLをWebブラウザに入力する、IPスキャナで本機のIPアドレスを割り出す、の3つがあります。ランディングページが表示されます。



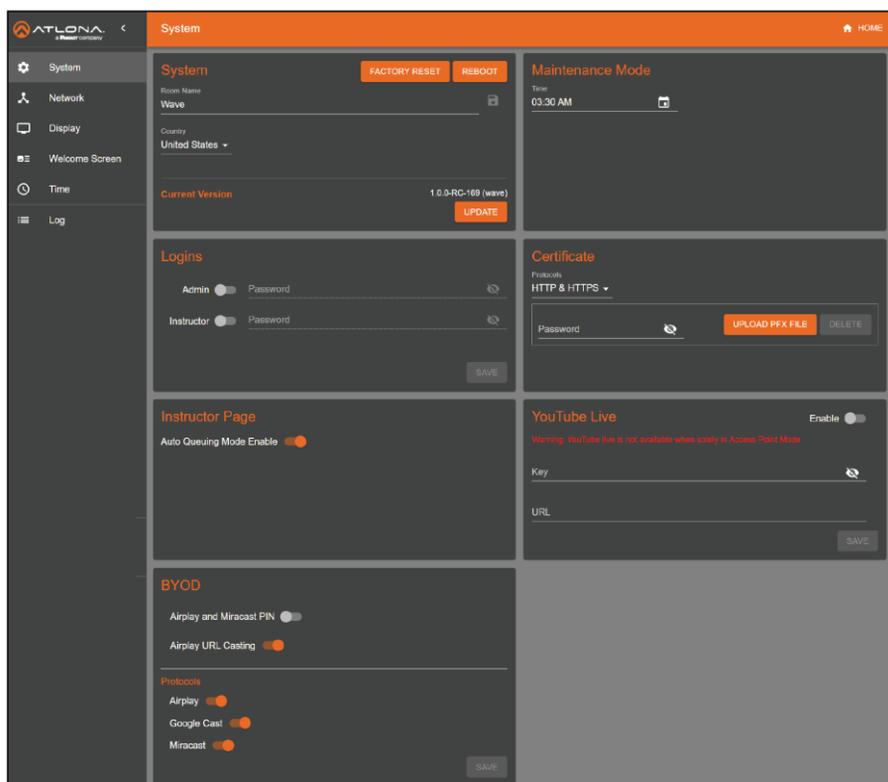
ランディングページでは、WAVE-101に接続してキャストを行うための簡単な手順を説明します。例えば、Windows OSのデバイスを接続した場合はMiracast、ChromeブラウザでWAVE-101に接続した場合はChromeキャストの説明が表示されます。

ここからは、2つのナビゲーションがあります。インストラクターページと設定ページです。WAVE-101の設定（表示制御を含む）を行うには、**Settings**を選択します。ユーザーベースのコンテンツ表示・制御エリアは、**Instructor**を選択します。インストラクターモードを使用する前に、まず**Settings**からWAVE-101の設定を行うことをお勧めします。

設定

Settingsは、ログインやネットワーク設定、ホーム画面のカスタマイズなどを設定するためのものです。

System



System

Factory Reset - WAVE-101の設定を変更した後、まっさらな状態に戻したい場合はこのボタンを選択します。リセットを確認するためのポップアップが表示されますので、「FACTORY RESET」リンクを選択し、リセットを確認します。

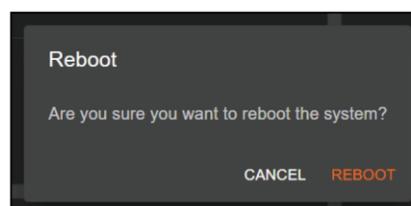
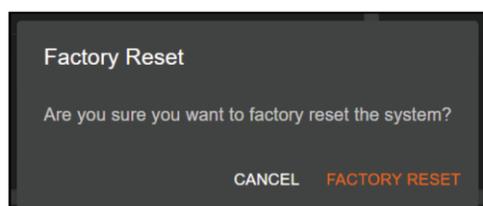
i 注：WAVE-101にPXFファイルをアップロードしている場合、リセットを行うとファイルが削除されます。

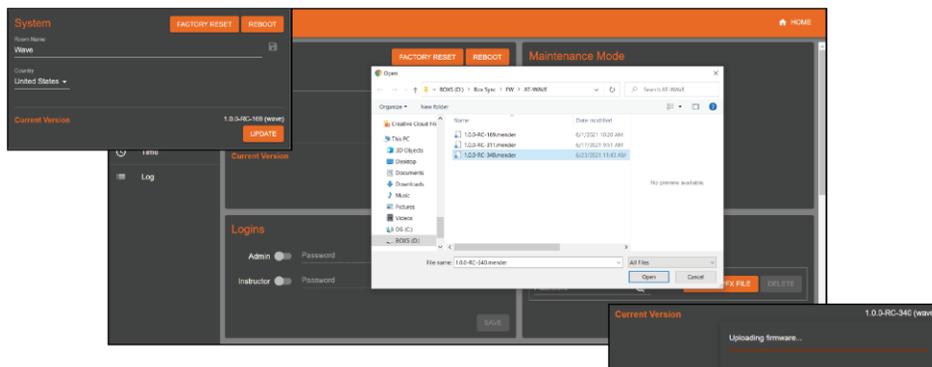
Reboot - 押すと、選択を確認するポップアップが表示されます。REBOOT ボタンを押すと、WAVE-101 が再起動します。

Room Name - ここに部屋の名前を入力します。ディスクのアイコンを押して、名前の変更を保存します。これは、ウェルカムスクリーンの一番上に表示されます。

Country-ユニットの国を設定します。これは、WAVE-101をWi-Fiアクセスポイントとして使用する場合に特に重要で、地域に合わせて構成を調整します。

i 注：国を変更すると、WAVE-101の無線LANアクセスポイントがチャンネル不一致で使えなくなることがあります。その場合はNetwork設定より、新しいチャンネルを選択する必要があります。

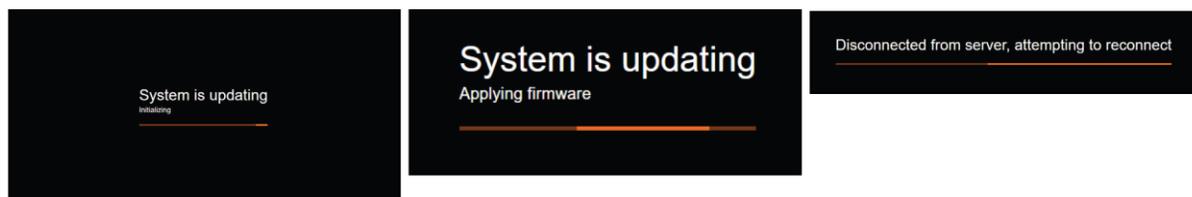




Current Version (現在のバージョン)

現在のバージョンは、Current Versionラベルの右側に表示されます。最新のバージョンが使用されていることを確認するには、製品ページ (<https://atlona.com/product/at-wave-101/>) の **Firmware** タブを確認してください。

新しいファームウェアがある場合は、ローカルのコンピュータにダウンロードします。このファイルは.zip形式で、アップデートするには解凍する必要があります。ダウンロードして解凍したら、アップデートボタンを押してください。フォルダがポップアップ表示されます。コンピュータ上で最近保存したファイルを探し、[開く]ボタンを選択します。ファームウェアのアップロードが開始され、小さなステータスバーが表示されます。



アップデートが開始されるとページはプログレスバーのある真っ黒な画面に切り替わります。(接続されている場合は、WebブラウザとHDMI出力の両方に表示されます) この処理には最大で5分ほどかかることがあります。ファームウェアが本体に適用されると、本体が再起動し、サーバーから切断されたことが表示され、再接続を試みますというメッセージが表示されます。再起動が完了すると、Systemページに戻ります。



Logins (ログイン)

デフォルトでは、ログインは無効になっています。

Admin - 設定とAPIエリアのパスワード保護を有効にするために、スライダーを選択します。設定エリアをパスワードで保護するには、Adminの隣にあるフィールドに新しいパスワードを入力します。

Instructor - インストラクターエリアのパスワード保護を有効にするためにスライダーを選択します。これにより、インストラクターページにアクセスする際にパスワードが要求されるようになります。

パスワードが書き込まれたら、[保存] ボタンを選択します。Adminがパスワード保護に設定されている場合、保存されるとログインページに移動し、設定に戻るにはパスワードの入力が必要になります。

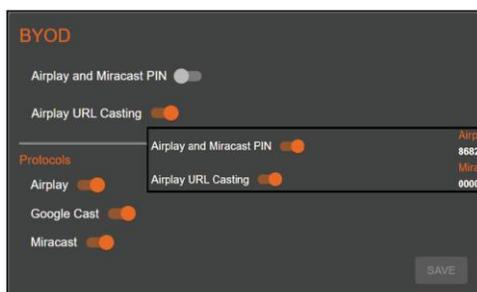
注: Instructorのパスワードは、Adminのパスワードが有効でない限り、有効にすることはできません。



Instructor Page

デフォルトでは、オートキューイングモードは無効になっています。

Auto Queuing Mode Enable-スライダーを選択して、インストラクターページのオートキューイングモードを有効または無効にします。有効にすると、新しいコンテンツは HDMI ディ스플레이に直接ではなく、インストラクターページのサイドにあるキューに追加されます。



BYOD

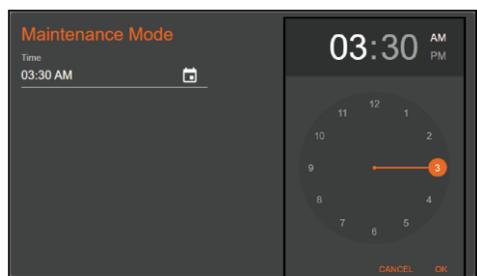
AirPlay and Miracast PIN slider - AirPlay および Miracast PIN サポートを有効にする場合に選択します。AirPlay または Miracast (P2P またはインフラストラクチャ) のソースが検出されると、PIN がウェルカム画面の右上に表示されます。

Airplay URL Casting - Airplay URL Casting の有効/無効を選択します。

注：自動キューイングを使用する場合は、この機能を無効にすることを推奨します。

Protocols

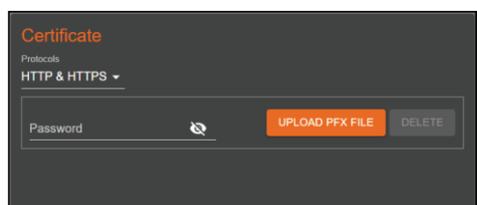
Airplay、Chromecast、Miracast - 個々のスライダーを選択して、各キャストプロトコルを有効（オレンジ）または無効（グレー）にします。



Maintenance Mode

デフォルトでは、メンテナンスモードは午前3時30分に設定されています。メンテナンスモードは、キューにあるすべてのエラーデータおよび残存メディアをクリアし、システムを再起動します。

Time - 時間フィールドを選択して、メンテナンスモードが開始する時間を設定します。時刻を選択するための簡単な時計がポップアップで表示されます。



Certificate

Protocols - このドロップダウンで、HTTP & HTTPSとHTTPSのみのいずれかを選択します。

Password - アップロードされるPFXファイルのパスワードを設定します。

Upload PFX File - すでに作成されているPFXファイルをアップロードします。フォルダがポップアップ表示されますので、ローカルコンピュータからファイルを選択し、[開く]を押してください。

Delete - 現在のPFXファイルが不要になった場合は、削除ボタンを押すとシステムから削除されます。



YouTube Live

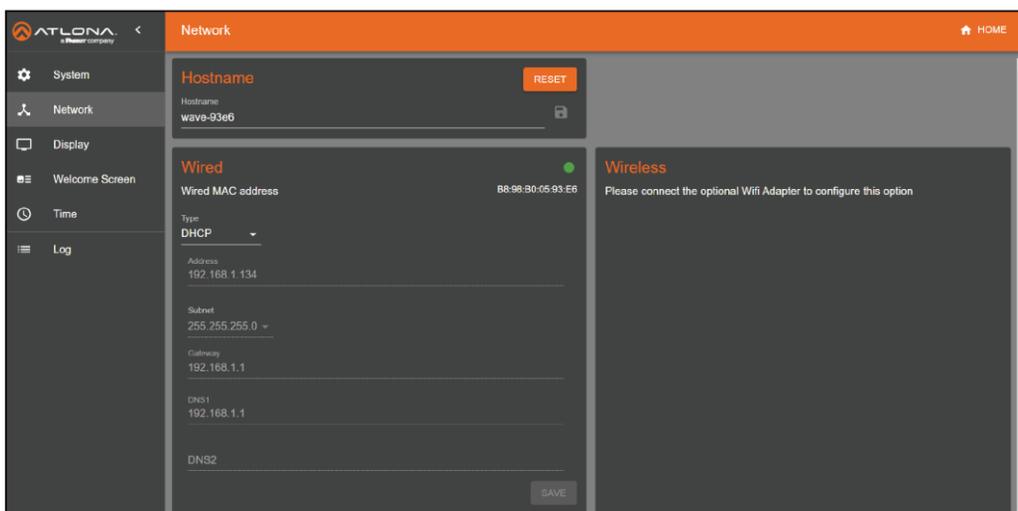
Enable slider - スライダーを選択して、YouTube でライブストリーミングする機能を有効または無効にします。無効の場合、このオプションは講師のページに表示されません。YouTube Liveを使用しない場合は、このオプションを無効にしておくことをお勧めします。

Key - キーがYouTubeから提供され、有効化するのに1日かかります。このステップに進む前に、YouTubeライブのアカウントをセットアップすることをお勧めします。

URL - YouTubeライブストリームに関連するURLを提供します。

Save - すべての情報を入力したら、このボタンを選択し、WAVEで変更をライブにします。

System



Hostname

Reset - このボタンを押すと、ホスト名がデフォルト設定の **wave-xxxx** (本機の MAC アドレスの最後の 4 つ) にリセットされます。

Hostname - ネットワークとキャストに表示される名前を入力します。設定後、ディスクアイコンを選択し、変更を保存します。

Wired

Status Circle - 右上の円は、イーサネットポートの状態を表示します。緑色は信号良好、黄色は接続中、赤色は LAN ポートに信号エラーがあることを意味します。

Wired MAC Address - 本機のイーサネット MAC アドレスが表示されます。

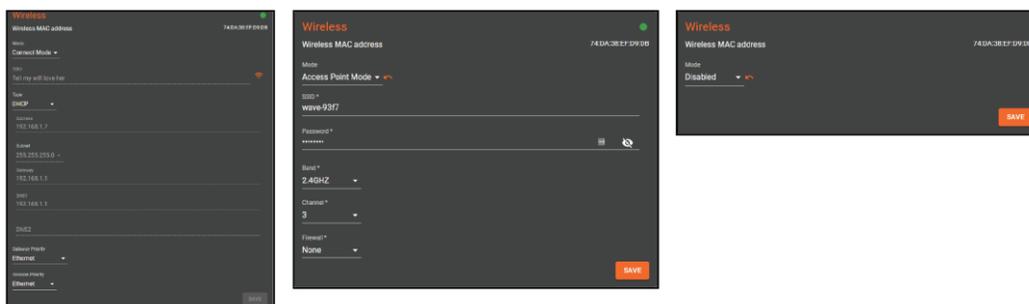
Type - DHCP (デフォルト) または Static IP モードのいずれかを選択します。

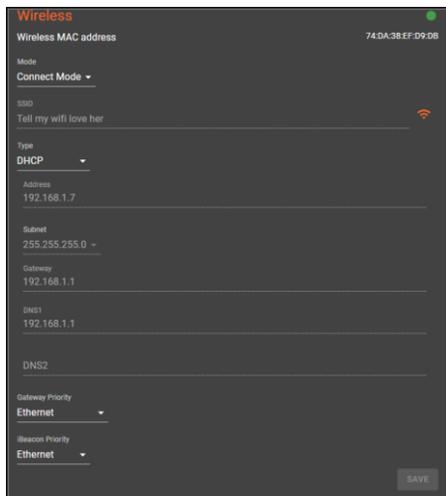
- DHCP はローカルネットワークから IP を受信し、すべての情報がネットワークフィールドに表示されます。このモードでは、変更することはできず、グレーで表示されます。
- Static では、IP、サブネット、ゲートウェイ、DNS サーバーを手動で入力することができます。

Save - Save ボタンを選択すると、これらの設定が本機に保存されます。

Wireless

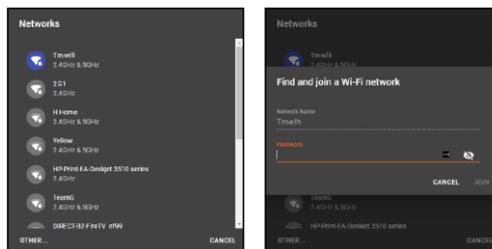
このセクションは、付属のワイヤレス dongle が USB ポートの 1 つに接続されるまで空のままです。接続されると、デフォルトでアクセスポイントモードになりますが、他に 2 つのオプションがあります。接続モードと無効の 2 つのオプションがあります。アクセスポイントモードと接続モードのどちらも必要ない場合は、このオプションを無効にすることをお勧めします。





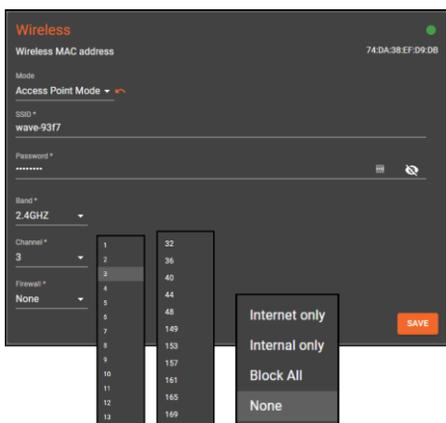
Connect Mode

このモードを有効にすると、オレンジ色のWi-Fiアイコンを選択すると、ネットワークを選択するためのポップアップが表示されます。正しいWi-Fiネットワークを選択し、プロンプトが表示されたらパスワードを入力します。保存されると、その下にネットワーク情報が表示されます。デフォルトでは、DHCPに設定されています。有線接続の場合と同様に、静的接続に設定し、接続のための情報を手動で設定することもできます。



i 注：コネクトモードを選択する前にアクセスポイントモードに設定していた場合、既存のアクセスポイントをスキャンすることはできません。SSID/Passwordを手動で入力する必要があります。アクセスポイントのスキャンを行うには、アクセスポイントモードを「無効」に設定し、保存を押した後、コネクトモードを選択します。

Gateway Priority and iBeacon Priority - Wave、Ethernetポート（推奨）、Wi-Fiポートのどの経路を優先的に接続するか選択します。



Access Point Mode

このモードを選択すると、他のデバイスが接続するためのWi-Fiアクセスポイントが作成されます。

SSID - これは、Wi-Fi SSIDとして他のデバイスに表示される名前です。

Password - ネットワークに不要なユーザーを入れないようにするためのパスワードを設定します。

Band - アクセスポイントを 2.4GHz または 5GHz のいずれかに設定します。（地域によって異なります）

Channel - ドロップダウンリストからチャンネルを1つ選択します。このリストには、WAVE-101の設定した地域に対応したチャンネルだけが表示されます。国が設定されていない場合は、システムページに戻り、国を設定してください。

Firewall - イーサネットポートからアクセスできる範囲を設定します。

- Internet only - ネットワーク外のコンテンツ（YouTube、Googleなど）へのアクセスを許可しますが、内部のコンテンツへのアクセスは許可しません。
- Internal only - ネットワーク上のコンテンツのみへのアクセスを許可します。（このモードではYouTubeやGoogleなどのコンテンツはブロックされます）
- Block All - Wi-Fiアクセスポイント経由のアクセスを一切許可しません。
- None - ファイアウォールを無効にし、あらゆるアクセスを許可します。

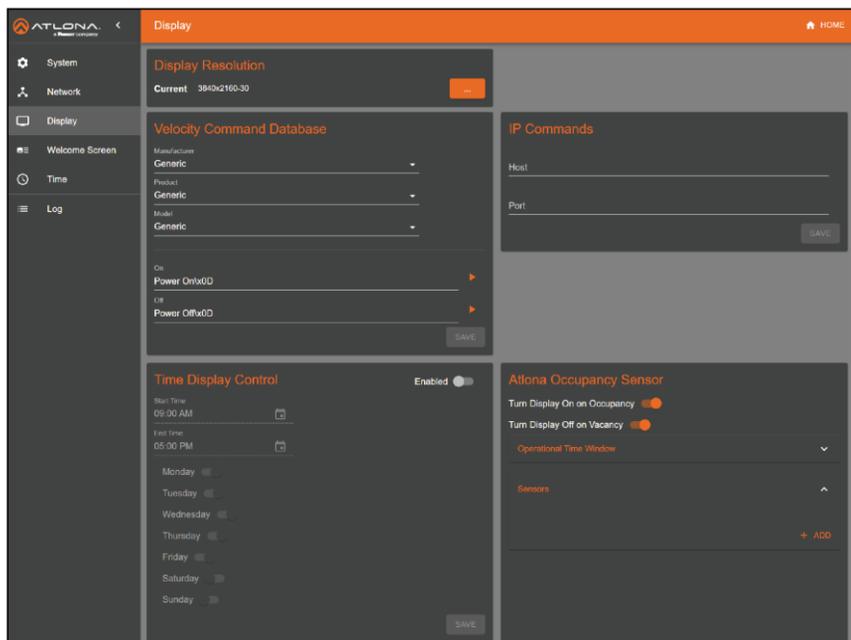


Disabled

このモードを選択すると、他のモードを選択するまで、すべてのWi-Fi機能が無効になります。

オプションで新しいものを選択したら、saveを選択します。これで、WAVE本体に変更内容が反映されます。

Display

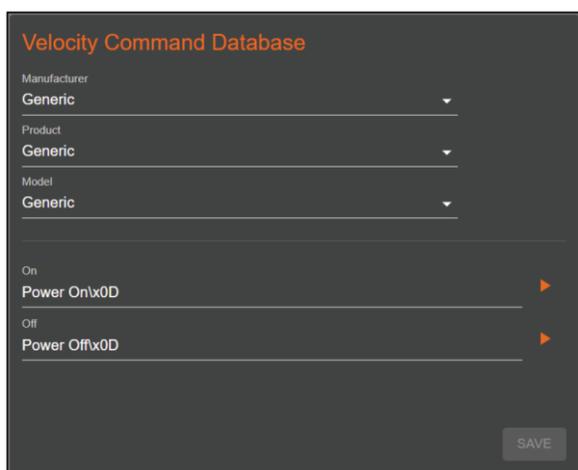
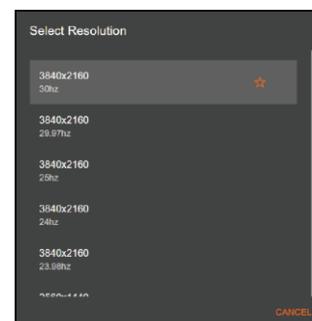


Display Resolution

ディスプレイを接続し、通過する解像度を選択できます。デフォルトでは推奨解像度が選択されます。



...ボタン - このボタンを選択すると、互換性のある解像度のリストが表示されます。推奨されるデフォルト解像度の横に星印が表示されます。

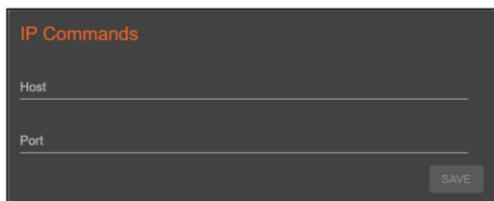


Access Point Mode

WAVE-101は、様々なメーカーや製品のコマンドをあらかじめデータベースに登録しています。WAVE-101は、あらかじめ様々なメーカーの製品に対応したコマンドをデータベース化しており、オン・オフを設定するために他のマニュアルを参照する手間を省くことができます。これらのコマンドは、USB-RS-232アダプタ（別売）を接続しない限り、IPで送信され、右側にドロップダウンが表示され、IPかRS-232かを選択できます。メーカー、製品、モデル - 各オプションを上から下へ順番に選択します。選択するたびに新しいオプションが表示されます。メーカー、製品、モデルが表示されていない場合、Genericを使用してカスタムコマンドを実行することができます。

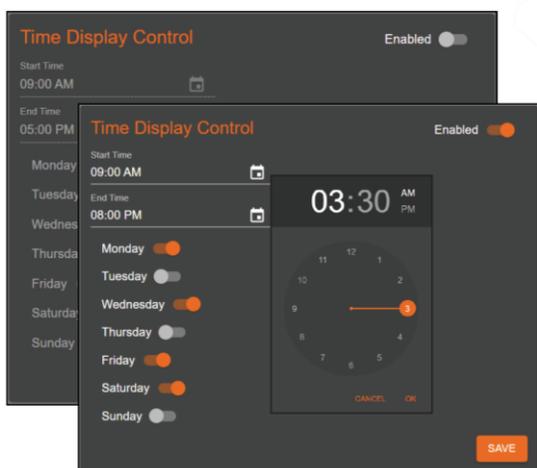
On/Off - これらのフィールドには、電源オンと電源オフのコマンドが自動入力されます。コマンドが手動で入力されるのは、ディスプレイが内蔵リストで見つからない場合だけです。

Send button - コマンドの隣にあるオレンジ色の三角形を選択すると、コマンドがディスプレイに送信されます。これにより、コマンドが後で動作することを確認するためにテストすることができます。



IP Commands

IP Address and Port - コマンドを送信するためのディスプレイのIPアドレスとポートを入力します。



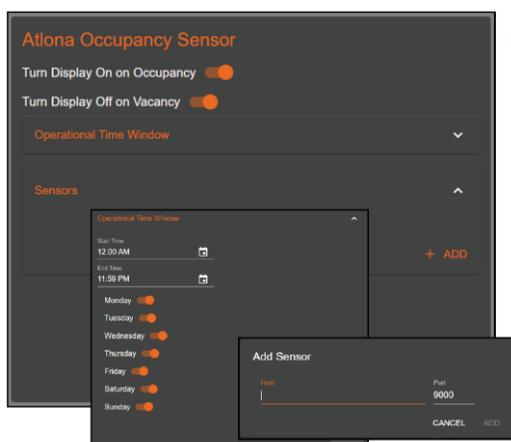
Time Display Control

このセクションを有効にすると、曜日ごとに決まった時刻に自動的にディスプレイに電源オン/オフコマンドが送信されます。

注: オフの間、コンテンツがアクティブに表示されている場合、WAVE 101 は、すべてのコンテンツがシステムから切り離されるまで、電源オフシーケンスを遅らせます。

Start/End Time - 時計のポップアップを表示するためのフィールドを選択します。これにより、開始または終了時刻を簡単に設定することができます。

Days - 自動オン/オフコマンドを送信する曜日の横にあるスライダーを選択します。スライダーは、有効な場合はオレンジ色、無効な場合はグレーになります。



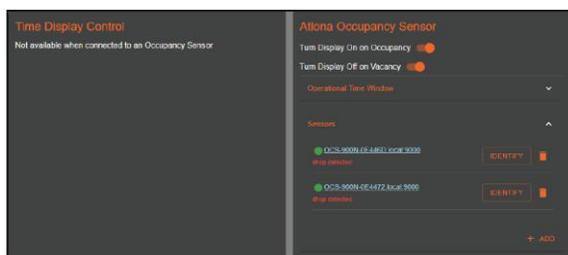
Atlona Occupancy Sensor

Turn Display On on Occupancy - 有効にすると、AT-OCS-900Nが部屋の動きを検出した後、WAVE-101はディスプレイオンのコマンドを送信します。

Turn Display Off on Vacancy - 有効にすると、WAVE-101は、OCS-900Nが一定時間（OCS900Nで設定）室内に動きがないことを検出した後、ディスプレイオフコマンドを送信します。

Operation Time Window - 動体検知時にOn/Off自動コマンドを有効にする日時を設定します。

Sensors - OCS900NをWAVE-101にリンクさせるには、「+ ADD」ボタンを選択します。ポップアップが表示されますので、IPアドレスを入力してください。大きな部屋では、1台のWAVE-101に複数のOCS900Nをリンクさせることができます。

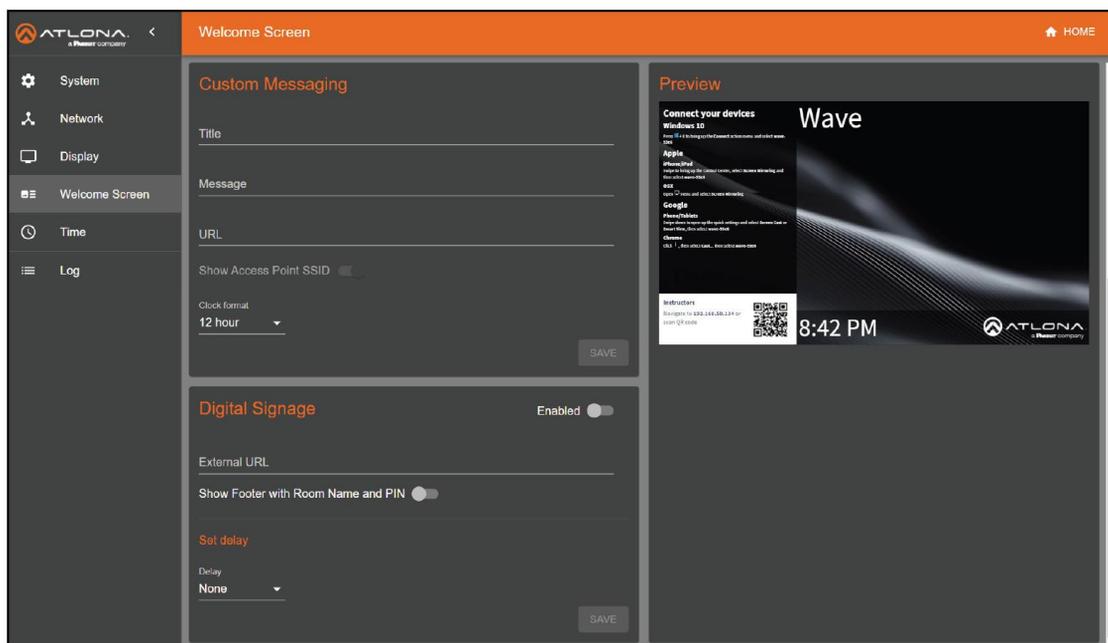


追加すると、Time Display Controlは使用できなくなり、OCSラベルの横に2つのオプションが追加表示されます。

Identify - 選択すると、OCS-900NのLEDが点滅し、WAVE-101から話しかけられたOCSを判別しやすくなります。

Delete (ゴミ箱) - これを押すと、OCS900NとWAVE-101の同期が解除されます。OCSが同期していない状態で、再び時刻表示制御が可能になります。

Welcome Screen



Custom Messaging

ここで選択したオプションは、画面の左下にQRコードと一緒に表示されます。

Title - 白いボックスの左上に太字で表示されるヘッダーを入力してください。

Message - ここに書かれた情報は、白いボックスのヘッダーの下に表示されます。

URL - ここに入力されたURLは、スキャン可能なQRコードに変換されます。デフォルトでは、WAVE-101のランディングページが表示されます。

Clock Format - 12時間表示と24時間表示を切り替えます。

Digital Signage

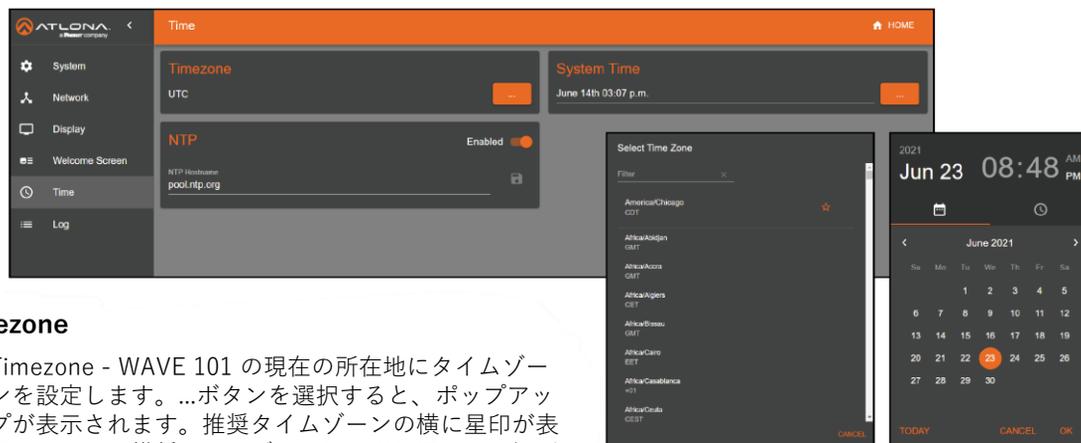
有効にすると、通常のウェルカム画面をカスタムページに置き換えます。

External URL - カスタムウェルカム画面があるURLを入力します。

Show Footer with Room Name and PIN - これを有効または無効にすると、カスタムウェルカム画面の下にルーム情報が表示されます。

Set delay - デフォルトでは、遅延は0に設定されており、現在のプレゼンテーションが終了すると、デフォルトのウェルカム画面をデジタルサイネージ画面に自動的に切り替えることを意味します。これを0秒から1時間に設定すると、キューに入れられた（有効な場合）すべてのプレゼンテーションが終了してから1時間は、カスタムデジタルサイネージ画面は表示されません。デジタルサイネージが表示されていない間は、デフォルトのアトローナウェルカム画面が表示されます。

Time



Timezone

Timezone - WAVE 101 の現在の所在地にタイムゾーンを設定します。...ボタンを選択すると、ポップアップが表示されます。推奨タイムゾーンの横に星印が表示されます。推奨タイムゾーンは、WAVE-101の場所ではなく、管理用ブラウザを基準にしています。

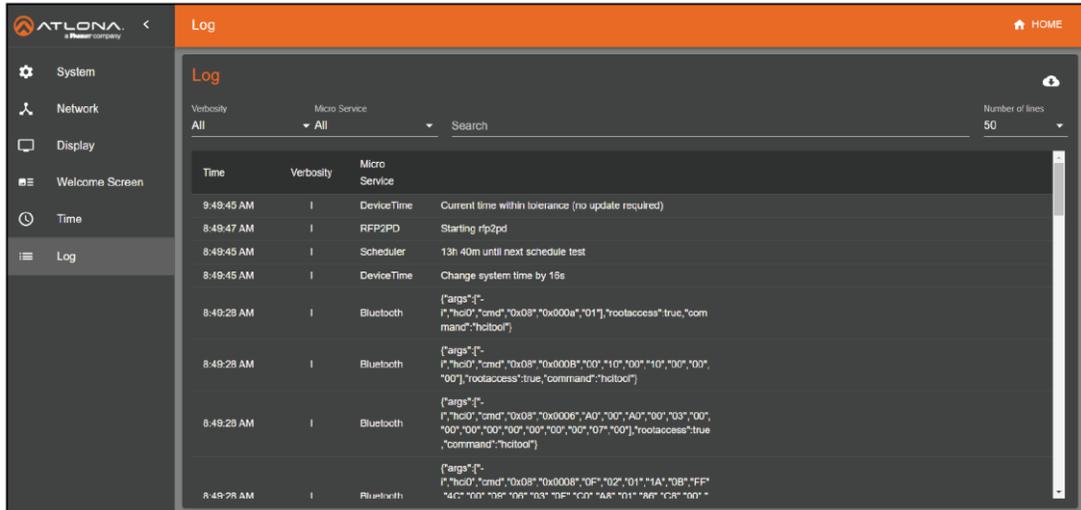
NTP

NTP Hostname - 本機がインターネットまたは内部NTPサーバーにアクセスできる場合、サーバーに同期するように設定可能です。スライダーを選択して有効にし、サーバー情報をHostnameフィールドに入力します。フィールドの横にあるディスクアイコンを押して保存します。

System Time

...ボタン - NTPサーバーがない場合は、...ボタンを選択して、本機の日付と時刻を設定します。カレンダーを選択するポップアップが表示されますので、時計のアイコンを選択して時刻を調整します。NTPサーバーが利用可能な場合は、このセクションを使用しないことをお勧めします。

Log

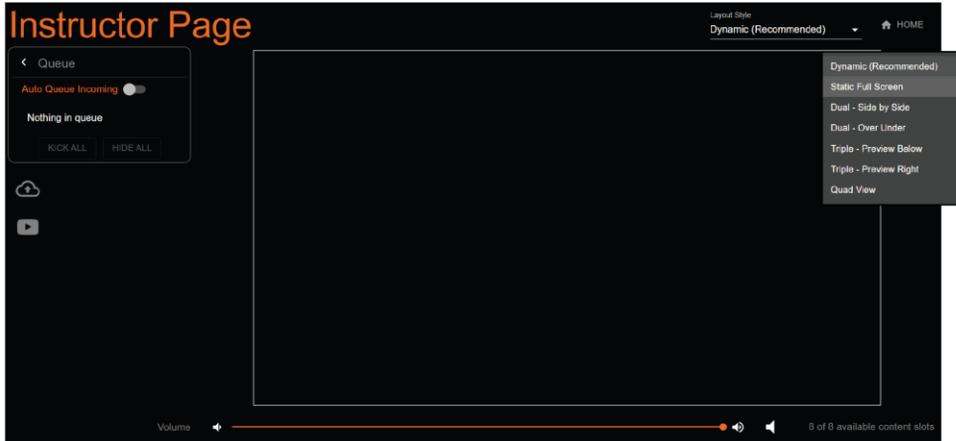


Log

このページには、本体ログが表示されます。変更が加えられると、いつでもログに記録されます。ログをダウンロードするには、下矢印のついたクラウドボタンを押します。フォルダが開き、ローカルコンピューター上の保存先が選択できます。

インストラクター

インストラクターページは、コンテンツを表示・制御するためのユーザーインターフェイスを提供します。



Layout Style

Dynamic - 入力されたストリームに対して自動的に画面を調整し、コンテンツに最も適したレイアウトスタイルを選択します。

Static Full Screen - ディスプレイに1つのコンテンツ・ストリームのみを表示します。

Dual - Side by Side - 2つのストリームを 50/50 のサイドバイサイドでディスプレイに表示します。

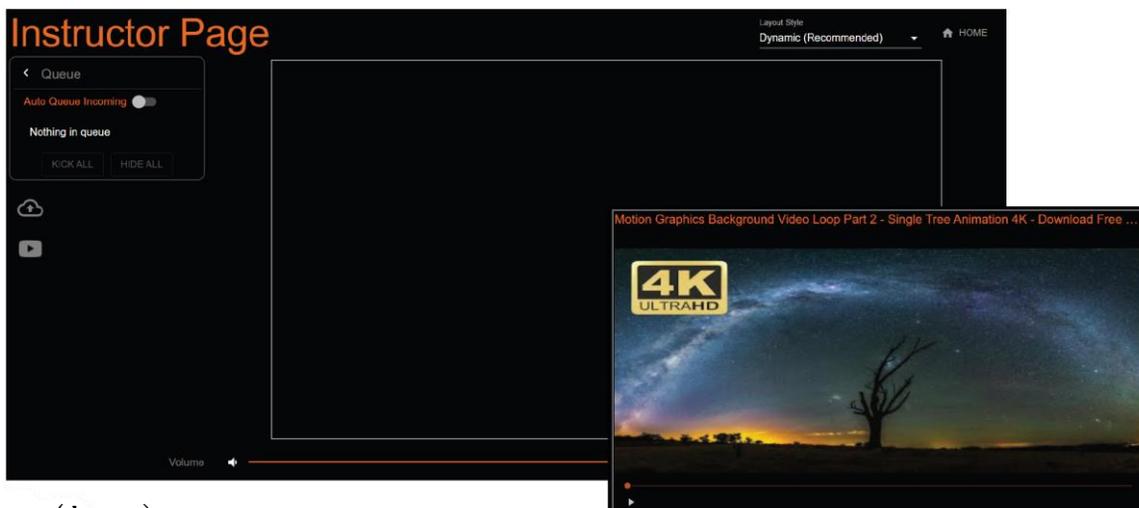
Dual - Over Under - 2つのコンテンツが上下に50%ずつ分かれて表示されます。

Triple - Preview Below - メインコンテンツは上部の大きなセクションに表示され、他の2つのストリームはメインコンテンツの下の下部にプレビューを表示します。

Triple - Preview Right - メイン・コンテンツは左側の大きなセクションに表示され、他の2つのストリームはディスプレイの右側にプレビューとして表示されます。

Quad View - ディスプレイに最大4画面まで均等に表示されます。



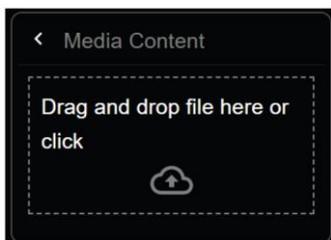


Queue(キュー)

Auto Queue Incoming - これを有効にすると、追加されたものがキューに入れられます。無効にすると、メディアコンテンツに追加されたもの、またはドラッグされたものが自動的に画面に表示されます。

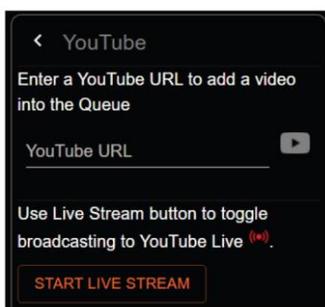
Kick All - このボタンを選択すると、キューからすべてが削除されます。

Hide/Show All - Hide All をクリックすると、このフィールドが折りたたまれ、キューにあるものがすべて隠されます。非表示にすると、ボタンが Show All に変わり、これを選択すると、現在キューにある全てのコンテンツが表示されます。



Media Content

Cloud with up arrow - クラウドのアイコンを選択すると、ローカルメディアコンテンツ用の領域が開きます。クリックしてローカルコンピューターからファイルを選択するか、点線の四角いフィールドにファイルをドラッグ&ドロップします。



YouTube

YouTube URL - 大きなYouTubeのアイコンを選択すると、YouTubeコンテンツ用のエリアが開きます。ビデオコンテンツのURLをコピーして行に貼り付け、小さなYouTubeのアイコンを押すと、キューに追加したり、自動再生したりすることができます。

i 注：動画は自動再生されません。プレビュー欄の再生ボタンを選択すると、動画が開始されます。

任意 Start Live Stream - YouTube Live が設定で有効になっている場合、このボタンを選択すると HDMI ディスプレイにライブストリームが表示されます。

Video Content *ローカル動画やYouTube動画を読み込んだ際のプレビュー欄に表示されます。*

Preview - プレビュー欄にビデオまたは YouTube 動画のサムネイルが表示されます。コンテンツはHDMIディスプレイのみに表示されます。

Play - ビデオプレビューの下の左下にある白い三角形を選択すると、再生が始まります。再生中は一時停止(II)マークに変わります。

Video Slider - オレンジ色のドットをドラッグするか、スライダバーのポイントをクリックして、ビデオを特定の再生ポイントに調整します。



Status

Volume - ボリュームは、バーの両側にあるオーディオアイコンを使用するか、ボリュームバーのボリュームドットをドラッグして希望のレベルに調整することができます。

Mute - 右端のオーディオアイコンを使って、オーディオのミュートとミュート解除ができます。

Content slots - 右下には、追加可能なコンテンツストリームの数が表示されます。